
俺は世界を呪う、世界は俺を呪っている3

夏のサンタクロース

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺は世界を呪う、世界は俺を呪っている

【NZマーク】

N1280E

【作者名】

夏のサンタクロース

【あらすじ】

不安、恐怖、守りたいと思う心、大切にしたいといつ願い、それらを無視して、それは、始まつた。青年の想いは、錯綜する。

俺はいつからしんしょうでこつまでしんしょうなんだらう。わからない。

いつかは答がでるのだろうか？

ある先生は言った。

出口のないトンネルはない。

確かにそうかもしれない。でも俺のトンネルはもしかしたら、俺の人生よりも長いのかかもしれない。

出口につく前に俺はいづれ、燃料切れになるだらう。もしくは蜃氣楼のようなものなのかもしれない。そこにありそうで、ない。手に届きそうで届かない。所詮は夢物語。かなわぬ、夢。

青年は殺意を抱いた。

『死ねつ』

『しんしょう』

『臭い』

『調子一九九一』

『キモい』

これらの言葉を三年間も行く先々で聞かされると、人は自殺するか、仕返しをするか、どちらかだらう。

青年は後者だった。

『殺してやる。あいつら全員殺してやる！』

青年は以前、しんしょうとして生きようと決めた。何があつても、気にしないと。だが、それは、所詮、無理だった。三年間も蓄積されてきたそれは青年の許容範囲の限界を遥かに超えていた。理性というリミッターが、今、外れた。

電車の中で声が聞こえると、『うざい、死ね』、と言い返してやつた。それだけで電車の中は静かになった。言い返しながらもこいつらどうやって殺してやろうか、と考えていた。

ある日、思いついた。

『毒がいい。』

毒なら手軽で簡単にたくさん殺せる。そう思つたからだ。

そして、あくる日、

帰りの事だった。

駅で電車を待つてると、突然、隣の人から声をかけられた。

『あの〜、すみません。』

青年は驚いた。今まで、赤の他人で青年を「人」として見てくれる人はいなかつたからだ。

一応、周りを確認し、呼ばれたのが自分だとわかると、返事をした。

『なんですか？』

内容はこういうことだつた。『この駅には券売機がない、どうすればいいか？

青年にもわからなかつた。青年はいつも、往復券を買つからだ。一分くらい、その子と悩んだあげく、青年はお金払えば大丈夫じゃない?と言つたが、その子はう〜ん、と困つた顔をしていた。

そこで青年は閃いた。往復券の帰りのものを売つてあげると、提案した。

その子は驚き、いいんですねか?と言つていたが、ここで嫌と言つまど俺は性悪ではない。

そして、その子は嬉しそうな笑顔を見せた。今まで見たことないよう、本当にとびつきりの、かわいい笑顔だつた。

その笑顔で青年も幸せになれた。そして考え直した。

あの子も電車で通学してるのかあ〜。なら、毒買うの、やめようかな。

照れながらも、そう思った。

憎しみに

とられた心は
温かい、

一人の子にて
溶かされた。

それは、久々に、
本当に久々に、
生きててよかつた。

と思えるよつた
心地のいい一時だつた。

青年は自分が怖くなつた。戦うのは幻聴、奴ら、そしてなにより、自分。もともとにやけさえしなければ、こんなことにはならなかつたかも知れない。だが、何故にやけるのかは自分でもわからないのだ。コントロールできない。なぜ？自分なのに。俺は俺のはず。幻聴よりも、奴らよりもなにより、自分が怖い。いつか又、我を忘れて凶行に走らんとする自分がなによりも。

俺の為に戦つてくれた又は信じてくれた親友達、そしてあのかわいい女の子の笑顔を、俺は忘れない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1280e/>

俺は世界を呪う、世界は俺を呪っている3

2010年10月10日03時56分発行